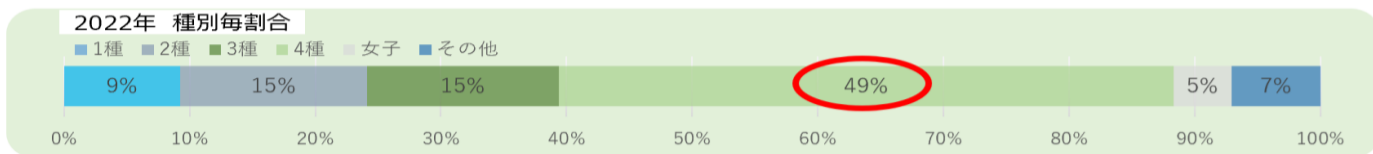
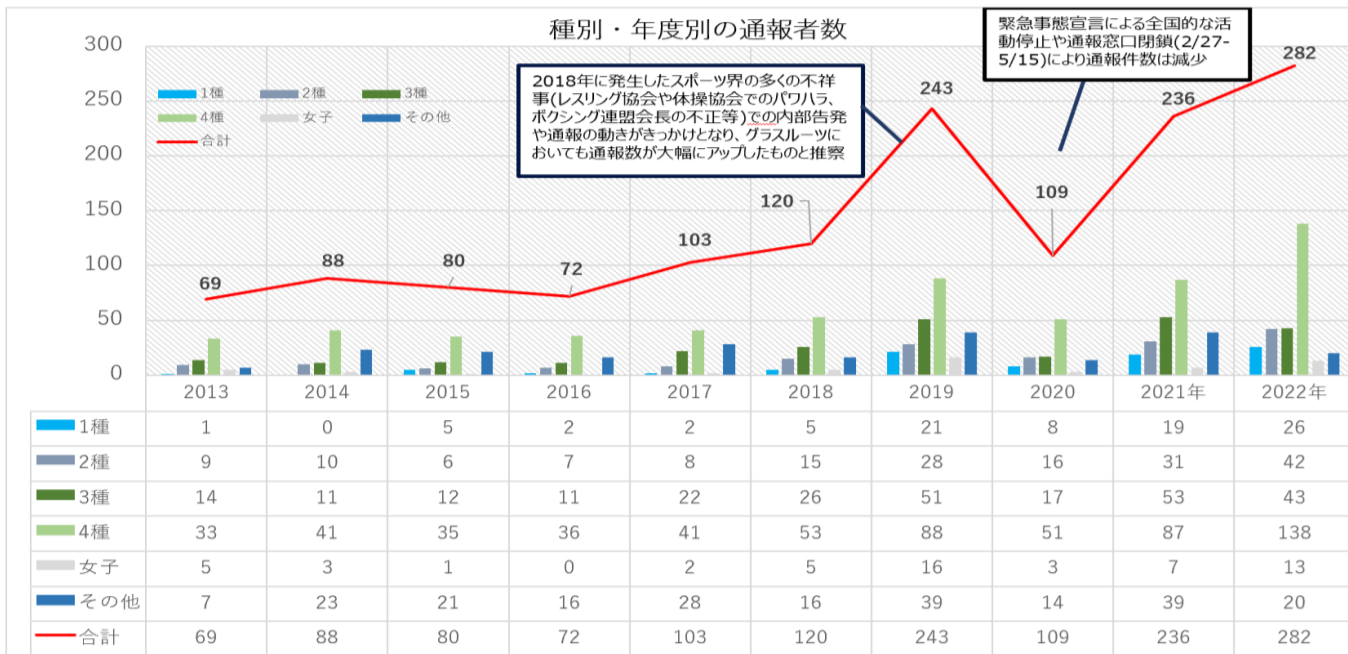
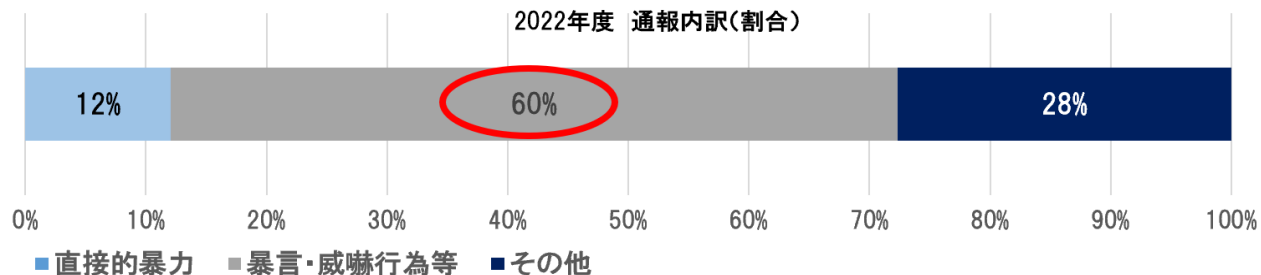
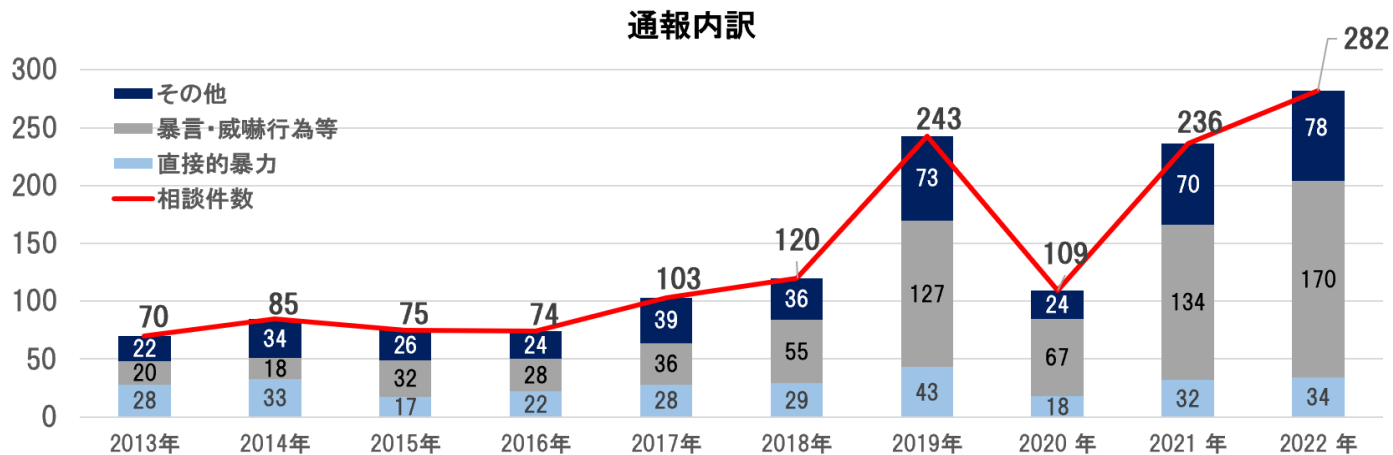


《参考》JFA暴力等根絶相談窓口／相談件数推移①



※「その他」に含まれる主なケース：JリーグやWEリーグのクラブ（ユースチーム、ジュニアユースチーム等を含む）における事案等

《参考》JFA暴力等根絶相談窓口／相談件数推移②



※「その他」に含まれる主なケース：保護者と指導者間のトラブル・クレーム（選手起用、男女関係など）、匿名かつチーム名等の情報もない

事例1

■ 当事者

チーム代表・監督／D級ライセンス

■ 事案内容

当事者は、試合の終了後、相手チームと挨拶をするために選手らが整列しているところ、自チーム選手がふざけていると勘違いし、選手の頭部を少なくとも2度叩き、「誰に口をきいているんだ」「お前は誰に口をきいとるんだ」と怒鳴りながら、当事者の腹部で選手の体を4～5度押した。

■ 懲罰内容

6ヶ月間のサッカー関連活動停止

事例2

■ 当事者

コーチ／D級ライセンス

■ 事案内容

当事者は、チームの活動中、選手Aの頬を平手で二度殴打する暴行を加え、その結果、左頬部打撲および左頬部口腔粘膜挫傷の傷害を発生させた。また、複数の選手に対し、暴言・暴力を用いた指導を継続して行ってきた結果、17名の6年生選手のうち3名が退団を余儀なくされ、選手Aに心因性視覚障害を発生させたことが認められた。

■ 懲罰内容

無期限のサッカー関連活動停止



- 暴力・暴言等の根絶に向けた取り組みを強化するため、これまでの、主に指導者を対象とした教育・啓発だけでなく、サッカー界全体で、その根絶に取り組む

これまで

主に指導者を対象とした啓発・教育

- 公認指導者ライセンスの資格取得時の研修（D～S級）
- RSPECT関連啓発活動
- ウェルフェアオフィサーの設置（ジェネラル・マッチ）
- セーフゲーディングポリシーの策定
- 暴力等根絶相談窓口の運用

これまでの
活動に加え

これから

指導者だけでなく、
選手・保護者・審判・チーム関係者・
ファン・サポーターも含めた
サッカー界全体での取り組みへ

- **全ての指導者への啓発・教育の徹底：**
JFAのメッセージを、一部の指導者だけでなく、ピッチに立つ**全ての指導者に網羅的に**届ける。
- **周囲の牽制機能の強化：**
指導者だけの問題でなく、選手・保護者・審判・チーム関係者も、**暴力・暴言等への高い感度**を持ち、周囲の目による牽制機能を働かせる。

- **より厳正な対処：**
起きた事案に対するより厳正な対処
(47FAも含めた懲罰規則・窓口等の運用の強化)

施策の全体像

施策区分① 啓発・教育の徹底

指導者

施策区分② 周囲の牽制機能の強化

選手・保護者・審判等

施策区分③ クラブによる牽制

クラブ

施策区分④ より厳正な対処

協会・連盟

啓
発
・
教
育

・ 制
度
整
備
・
ガ
バ
ナ
ン
ス

主たる課題

- ・指導現場で暴力・暴言等が存在している
- ・ライセンスを持たない指導者がいる
- ・指導者全員に教育が行き渡っていない

- ・暴力・暴言等を周囲が許容してしまう
- ・許容せずとも、声を上げない・上げられない
- ・声を上げたとしても、対処法が分からない

- ・クラブによる指導者等への抑止機能が弱い
- ・クラブによる選手等への啓発機能が弱い

- ・懲罰処分の基準・内容が知られていない
- ・47FA中心に事案対応機能が十分でない
- ・窓口・通報者保護が広く知られていない

施策方針

一部の指導者でなく、
全ての指導者を対象に、
継続的な施策を

選手・保護者・審判は、
暴力等を許容せず、牽制
機能をもてるような施策を

クラブが牽制・啓発機能を
持てるような施策を

暴力・暴言等への
より厳正な対処を

主たる施策

- 指導者養成カリキュラム改革
- 講習会・研修会での教育強化
- 指導者ライセンス保有義務化
- 指導者ライセンス制度の改革

- 選手・保護者等への継続的な啓発

- クラブによるデイクォーリングの整備

- 懲罰処分の公表の強化
- 事案対応機能の強化
- 窓口・通報者保護の積極発信



● 選手・保護者・審判員などが、暴力・暴言等を許容せず、牽制機能をもてるような施策を

主な課題・背景

- 指導者の暴力・暴言等を**周りの大人が許容**してしまう（感度が
高くない、見て見ぬふりする）
- 選手が暴力・暴言を受けた際、それを**受け入れてしまい声を上
げられない**（選手が自らに原因があると考えてしまう）
- 選手が暴力・暴言を受けたり、周りの大人がそれを見聞きした際、許
容せずとも、**対処する方法（相談先・通報先）が分からず
に声を上げられない**

目標

短期

- あらゆるサッカーの現場で通年で啓発メッセージが発信されて
いる
- 暴力・暴言等についてより理解を深めることができる機会やコ
ンテンツが整備されている

中期

- 全ての登録選手（育成年代は保護者含む）・審判員ヘア
アプリを通じて直接的に啓発メッセージを届けることができている

施策

現在の
主な
取組み

無関心→関心

関心→行動

リスペクトフェアプレー
（各種試合でのリスペクト宣言など）

暴力暴言根絶相談窓口の設置・運用

オウンドメディアでの記事発信
ポスターの掲出

ガイドラインの周知・遵守促進
（セーフゲーディングワークショップ）

今後
さらに

代表選手・監督による啓発

- メッセージ動画など

短期

試合・大会における啓発

- 代表者会議での映像配信
- スタジアムでの映像配信

短期

クラブの活動における啓発支援

- 保護者説明会等で活用できる
ツール（映像など）の提供

短期

パートナー企業・他競技との連携

- 世界人権デー等での啓発

短期

JFA Passportアプリを活用した啓発

- 一人ひとりへの定期的・直接的・強制的な啓発映像等の配信

中期

オウンドメディアの情報充実化

- JFA.jp固定ページの情報充実
（暴根に関する具体情報掲
載・懲罰関連含む）
- 代表監督による啓発記事
- 実体験インタビュー記事

短期

外部メディアとの連携

- 新聞社等とのリスペクトフェア
レーシンポジウム共催

短期



● クラブが牽制・啓発機能を持てるような施策を実施する

主な課題・背景

- クラブによる暴力・暴言等を行う**指導者への抑止機能が弱い**
 (加盟チームに対してコンプライアンスに対する役割を与えていない
 /多くのチームは指導者がクラブの責任者であり、指導者の言動を客観的に評価する立場の人がいない)
- クラブによるコンプライアンスに関する**選手・保護者等への啓発機能が弱い**

目標

短期

- 誰もがクラブウェルフェアオフィサーとして活動できるように学習できるコンテンツが開設されている

長期

- 全てのクラブにJFAが指定する研修を受講した「クラブウェルフェアオフィサー」が配置・登録されている

施策

指導者への言動への抑止

選手・保護者等への啓発

現在の
主な
取組み

クラブウェルフェアオフィサーの養成

ガイドラインの周知・遵守促進
(セーフガーディングワークショップ)

保護者向けハンドブック
(めざせベストサポーター)

今後
さらに

クラブウェルフェアオフィサー向けeラーニング開設

短期

eラーニングコンテンツを一般に無料公開し、クラブ関係者や指導者への受講を推進する (任意・資格認定はしない)

クラブウェルフェアオフィサーの全クラブへの配置

中期

KICKOFF再構築に合わせて、全ての加盟クラブに「クラブウェルフェアオフィサー」の登録を義務付ける (クラブ関係者であれば誰でも登録可能)

クラブウェルフェアオフィサーの研修受講義務化

長期

全ての加盟クラブに登録された「クラブウェルフェアオフィサー」に研修 (eラーニング) 受講を義務付ける